

# 教育ボランティアへの意識および 参加の実態に関する調査

## アンケート調査結果報告書

千葉県再チャレンジ学習支援協議会

2008年5月

本調査は、千葉県再チャレンジ学習支援協議会の依頼を受けて、千葉大学教育学部教育社会学研究室（明石要一教授）が調査し、取りまとめました。

本件に関する照会先（メールにてお願いします。）

アドレス： [akashi@faculty.chiba-u.jp](mailto:akashi@faculty.chiba-u.jp)

## 調査概要

### (1) 調査の目的

企業やその従業員の、ボランティアに対する取り組みや意識などを調査し、今後のボランティアに関する施策などを検討する。

### (2) 調査の対象

千葉市の民間企業 全 11 社

### (3) 調査の実施方法

A・・・全 11 社の会社取組・方針調査

B・・・全 11 社の従業員に対する調査

A・B どちらも質問紙の郵送による調査を行った。

### (5) 調査時期

発送 3月中旬

回収 4月上旬～中旬まで

### (6) 回収結果

A・・・会社取組・方針調査

配布数	有効回収数	有効回収率
11人	5人	45.5%

B・・・従業員に対する調査

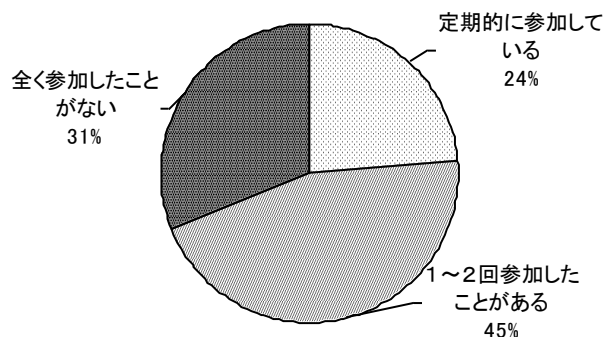
配布数	有効回収数	有効回収率
700人	311人	44.4%

<この報告書を読む際の注意>

- 1) 百分率 (%) は有効回収数 (回答者限定質問の場合は当該者数) を基数として算出し、少数第 2 位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、各項目の数値の和が 100 とならない場合がある。なお、無回答は含まないものとしている。
- 2) 複数回答の設問では、回答率の合計は 100% を超える場合がある。
- 3) 一部の図表では、対比を明確にするために選択肢の順序を入れ替えている。
- 4) 報告書内のクロス集計における「\*」は有意差を示すものであり、SIGNIFICANCE を (P) とし、以下の表にならい表記している。

***	$P \leq 0.01$
**	$0.01 < P \leq 0.05$
*	$0.05 < P \leq 0.1$
	$0.1 < P$

## 1 ボランティアの参加頻度



## 2 参加したことの活動

(%)

1	自治会の役員	38.9
2	地域美化ボランティア	28.0
3	防犯パトロール(子どもの登下校時の安全確保も含む)	22.8
4	自社の企業としてのボランティア	19.6
5	全くしたことがない	17.0
6	地域の子ども会の世話役	12.2
7	少年野球やサッカーなどのコーチ	10.9
8	福祉ボランティア	7.1
9	学校での授業支援	5.8
10	消防団	4.8
11	その他	4.2
12	学校での部活動の指導	3.5
13	災害派遣ボランティア	3.2
14	放課後子どもプラン(放課後の居場所づくり)の指導者	2.9
15	公民館や生涯学習センターでのボランティア	1.9
16	図書館や美術館でのボランティア	0.0

### 3 どうしたら参加するようになるか

(%)

1	過度の負担なく参加できたら	51.1
2	自分ができることと求められていることが合致したら	39.9
3	定期的にはではなく、好きな時に参加できたら	34.1
4	ボランティアの内容に関する情報があれば	25.4
5	職場の理解があれば	20.9
6	社会的評価が得られれば。	14.5
7	ボランティアで活かせる能力が身につけられたら	11.3
8	家族の理解があれば。	10.9
9	ボランティア休暇制度など整備ができたら。	9.0
10	ボランティアに関する講習や講座の開催があれば。	8.0
11	金銭的な報酬が得られれば。	5.1
12	その他	1.9
13	何があっても参加する気にはならない	0.6

### 4 情報提供の手段

(%)

1	地域の広報誌	74.0
2	地域の回覧板	53.7
3	会社を通じて	43.1
4	千葉県のホームページ	28.6
5	地域の掲示板	23.8
6	新聞広告	20.9
7	公民館や生涯学習センターへの掲示	15.8
8	学校だより	15.1
9	口コミ	12.9
10	その他(	2.9

5 定年後に大切にしたいこと × 年齢

		49歳以下	50～54歳	55歳以上	
1	健康を維持すること	80.7	89.0	89.9	*
2	生きがいを見つけること	72.0	72.0	53.2	**
3	趣味の時間を楽しむこと	72.0	68.3	73.4	
4	夫婦(家族)の時間を楽しむこと	50.0	56.1	50.6	
5	自分の時間を楽しむこと	49.3	43.9	59.5	
6	<b>仕事以外の新たな仲間作り</b>	26.0	34.1	<b>36.7</b>	
7	親子のつながり	24.7	15.9	19.0	
8	<b>隣近所とのつながり</b>	22.7	25.6	<b>36.7</b>	*
9	孫との時間を楽しむこと	19.3	6.1	11.4	**
10	次の世代へ自分の知識や経験を伝えること	16.0	8.5	15.2	
11	ボランティア活動	14.7	28.0	21.5	**
12	その他	0.7	2.4	1.3	

6 仕事とボランティアの兼ね合い × ボランティアの参加頻度 (%)

		定期的	1～2回	全くない	
1	仕事のない休日であれば参加する。	<b>68.1</b>	55.4	36.8	***
2	仕事は休めないが仕事の合間に参加する。	<b>33.3</b>	22.3	8.4	***
3	必要ならば、会社を休んで参加する。	18.1	16.5	17.9	
4	仕事との両立はできない。	6.9	13.7	<b>37.9</b>	***
5	その他	1.4	1.4	3.2	

7 参加したことがある活動 × ボランティアの参加頻 (％)

		定期的	1～2回	全くない	
1	地域美化ボランティア	44.4	33.1	7.4	***
2	自治会の役員	38.9	42.4	31.6	
3	防犯パトロール(子どもの登下校時の安全確保も含む)	34.7	22.3	13.7	***
4	自社の企業としてのボランティア(具体的に	29.2	25.2	3.2	***
5	地域の子ども会の世話役	15.3	13.7	8.4	
6	少年野球やサッカーなどのコーチ	15.3	12.2	6.3	
7	福祉ボランティア	13.9	6.5	2.1	**
8	その他	11.1	2.9	1.1	***
9	学校での授業支援	6.9	7.2	3.2	
10	災害派遣ボランティア	6.9	2.9	1.1	*
11	全くしたことがない	5.6	2.9	47.4	***
12	放課後子どもプラン(放課後の居場所づくり)の指導者	4.2	3.6	1.1	
13	学校での部活動の指導	4.2	4.3	2.1	
14	消防団	2.8	7.2	3.2	
15	公民館や生涯学習センターでのボランティア	2.8	2.2	1.1	
16	図書館や美術館でのボランティア	0.0	0.0	0.0	

8 どうしたら参加するようになるか × ボランティアの参加頻度 (％)

		定期的	1～2回	全くない	
1	過度の負担なく参加できたら	44.4	48.2	60.0	*
2	自分ができることと求められていることが合致したら	37.5	33.1	49.5	**
3	定期的にはではなく、好きな時に参加できたら	30.6	34.5	35.8	
4	ボランティアの内容に関する情報があれば	26.4	23.7	27.4	
5	職場の理解があれば	23.6	23.7	14.7	
6	ボランティアで活かせる能力が身につけられたら	6.9	12.9	11.6	
7	ボランティア休暇制度など整備ができたなら。	9.7	8.6	9.5	
8	ボランティアに関する講習や講座の開催があれば。	12.5	5.8	7.4	
9	金銭的な報酬が得られれば。	1.4	5.8	6.3	
10	社会的評価が得られれば。	25.0	15.8	5.3	***
11	家族の理解があれば。	19.4	10.1	4.2	***
12	その他	1.4	1.4	3.2	
13	何があっても参加する気にはならない	0.0	0.0	2.1	

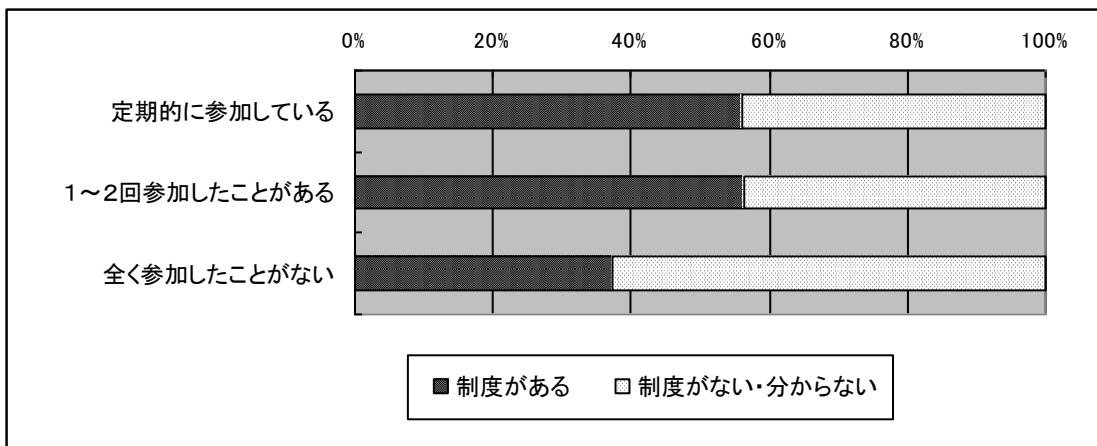
9 定年後のイメージ × ボランティアの参加頻度

(%)

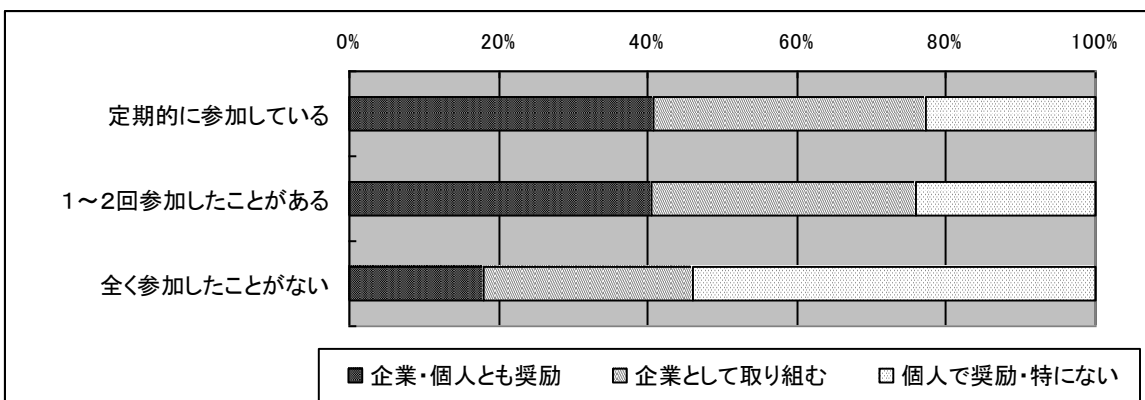
		定期的	1～2回	全くない
1	具体的にイメージできる	33.3	15.6	18.7
2	今考え中である	47.8	55.6	50.5
3	全くイメージできず不安	18.8	28.9	30.8

\*\*

10 ボランティア休暇制度の有無 × ボランティアの参加頻度



11 ボランティアに対する取り組み × ボランティアの参加頻度



## (7) 結果概要

### 【A 調査】

#### ①社員のボランティア活動に対する会社としての態度

半数以上の企業ボランティア活動を奨励しており、社員には活動しやすい環境が整っていると考えられる。

#### ②ボランティアをする際の休暇等の扱い

ボランティア休暇として扱うという企業が3社あり、多くの企業で制度が導入されていることが考えられる。

#### ③ボランティア活動促進のための方向性

情報提供に関しては取り組んでいる企業が多い（4社）が、研修や講座開設・制度の工夫などといった積極的な働きかけはあまりみられなかった。

#### ④社員がボランティアをできない要因

社員がボランティア活動に参加する際の、障壁として何が考えられるかを尋ねた。「時間的に余裕がないから」が3社と最も多い結果となった。

### 【B 調査】

#### <単純集計からみたプロフィール>

#### ①ボランティアの参加頻度

4人に1人は定期的に行っているが、3割は全くしたことがない。

#### ②定年後はイメージできているか

半数は考え中で、3割弱がイメージできていない。

#### ③定年後に大切にしたいことは何か

「健康維持・趣味を楽しむ・生きがいを見つける」がトップ3である。

#### ④参加したことがある活動は何か

自治会の役員が多く、次いで地域美化、防犯パトロールである。しかし、「全くしたことがない」という項目が16項目中5位で17.0%あった。

#### ⑤活動に参加した理由は何か

「地域に貢献したいから」というのが4割ほどで最多だったが、次いで「義務だから・地域の方が取り組んでいるから」とネガティブな参加理由が並んだ。



⑥活動に参加しない理由は何か

「時間的な余裕がない」という意見が4割。次いで、「活動に関する情報が少ない」という意見が2割弱。

⑦どうしたら参加するようになるか

「過度の負担」をさせない、「参加者のニーズ」をはっきり捉える、「時間と場所を限定せず、選択の幅を広げる」ということが求められている。

⑧適切な情報提供の手段は何か

「地域の広報誌」が7割と最も多く、「地域の回覧板」が5割となった。

⑨参加してみたい講習・講座は何か

トップ3は「健康・美容」「資産運用」「旅」がそれぞれ4割弱ほどである。

## <性差・年齢差からみたボランティアに関する実態>

①ボランティアへの参加頻度は属性によらない

ボランティア活動への参加頻度（定期的な参加・1～2回の参加・参加経験なし）は、性別・年齢によらず、属性による偏りが無い。

②性別からみる定年後の考え

男性は、定年後も仕事を続けたいという人が多い。健康維持のほかに、趣味を大切にしたいと考えている。

一方女性は、定年後は仕事から離れ、何かをしたいと思っているが何をするかはあまり定まっていない。老後は健康・美容を中心に、他者とのふれあいを求めている。

③年齢からみる定年後の考え

55歳以上も、定年後のイメージは4割弱の人しかできていない。年齢層が高くなるにつれて、「仕事以外の仲間作り」(26.0→34.1→36.7%)や「隣近所とのつながり」(22.7→25.6→36.7%)など、新たな仲間作りを大切にしていきたいと考えるようになる。

④性別でのボランティア活動の経験差

男性は主に自治会の役員(42.4%)やスポーツ指導に関するボランティアの経験が多く、女性は防犯パトロール(37.2%)など子どもの世話をする経験が多い。

#### ⑤性別からみる参加理由の違い

参加した理由では、男性は比較的「自分の趣味が活かせるから」というように自分にとってプラスになる理由から参加しているが、女性は「必要に迫られた」など強制的・受動的な参加が見受けられる。また、参加しない理由では、比較すると男性は「ボランティアの時間を自分の時間に充てたい」(8.9%)というように自分のために時間を使いたいという考えがあり、女性は「時間がない」(17.4%)「どんな活動があるかわからない」(9.3%)といった「～がない」という考えがある。

#### ⑥性別からみる参加の条件の違い

比較すると、男性は「社会的な評価や理解」があれば、女性は「情報提供」と「活動の自由度」があれば参加すると考えている。

#### ⑦性別・年齢からみる参加してみたい講習・講座

男性には「旅に関する講座」(41.1%)が人気で、女性には「健康や美容に関する講座」(59.3%)、「お茶・絵手紙・お花など、趣味を深める講座」(46.5%)が人気である。

また、年齢差をみると、49歳以下は「子ども理解に関する講座」(25.3%)が他年齢よりも大きくでっており、50～54歳では「健康や美容に関する講座」(45.1%)、55歳以上では「旅に関する講座」(48.1%)が多かった。

### <ボランティアへの参加タイプからみた社会参加意識>

#### ①ボランティア参加頻度からみる仕事との関わり方・定年後の考え

ボランティアに参加したことのある人は、うまく仕事と両立させながらボランティアをしていこうと考えているが、一方で全く参加したことのない人は、「仕事との両立はできない」(37.9%)という割合が大きく、仕事を優先したいという気持ち大きい。

定年後の考えは、定期的に参加している人はイメージがはっきりできている(33.3%)が、単発的な参加や、参加経験のない人はイメージができていない。

#### ②ボランティアの参加頻度を左右する要因

ボランティア休暇制度を取り入れている企業、また、会社として取り組み、個人の活動も支援する積極的な姿勢のある企業では、従業員が定期的なボランティア参加をしている割合が高い。

#### ③参加頻度からみる活動経験の違い

1～2回の単発的な参加しかしていない人は、「地域美化ボランティア」(33.1%)や「防犯パトロール」(22.3%)などの一般的・大衆的な活動が中心となるが、定期的な参加をしている人は、それらに加えて「福祉ボランティア」(13.9%)などの専門的な分野での値が高い。

#### ④参加頻度からみるボランティアに参加する理由

定期的な参加をしている人は、自発的な参加であり、単発的にしか参加していない人は、半強制的な理由で参加している。

#### ⑤参加頻度からみる参加条件の違い

全く参加していない人の意見をみると、「過度の負担なくできたら」(60.0%)が最多であり、「自分ができることと求められていることが合致したら」(49.5%)、「定期的にはではなく、好きな時に参加できたら」(35.8%)と続く。

また、定期的に参加している人にも注目すると、「社会的評価が得られれば」(25.0%)と「家族の理解があれば」(19.4%)が比較的高い。

#### ⑥参加頻度からみる適切なチャンネル

「地域の広報誌」がどのタイプでも最も多く(70.5%~77.8%)、ここに重点を置いた広報が期待される。

#### ⑦参加頻度からみる参加してみたい講習・講座

単発的な参加しかしていない人は、比較的多くの講座を受講したいと考えており、入門的で簡単な講座を求めている。一方、定期的な参加をしている人は、「子ども理解に関する講座」(26.4%)が比較的高く、専門的な分野での講座を求めているといえる。

## まとめ

本調査では、企業で働く従業員の、現在のボランティアに対する関わりと、定年後の意識に関する調査を行ってきた。これまでのボランティアに関する調査では、現在ボランティアとどう関わっているかという観点や、属性別に分析するという観点がみられた。しかし本調査で特筆したいのは、そういった基礎調査に加え、ボランティア活動への参加頻度による分析を行ったことである。調査の結果、参加頻度は属性によって変わらないということがわかった。よって、参加頻度を属性として扱い、それを軸に分析することができた。以下に、基礎調査を含めた本調査結果を大きく3つにまとめる。

1. 千葉県内の企業 11 社への質問紙による調査を実施し、有効回収数は、会社の取り組みに関する調査が 5 社、従業員に対する調査が 311 名であった。従業員に対する調査において、性別比は男性が7割強であり、女性が少ないというサンプルであった。年齢は 49 歳以下が約半数を占め、50～54 歳・55 歳以上がそれぞれ約4分の1であった。
2. ボランティアに関する実態・意識を、基本的な属性である性別・年齢などで比較した。すると、ボランティアへの参加頻度は性別・年齢によらず、偏りが無いことが明らかとなった。また、男女間で差がみられた特徴について挙げると、

### <男性>

- ・定年後も仕事を続けたい。
- ・健康維持のほかに、趣味を大切にしたい。
- ・自分にプラスになるという理由で活動に参加している。
- ・ボランティアより、自分のために時間を使いたいという理由で参加しない。
- ・「社会的な評価や理解」があれば活動に参加したいと思う。
- ・「旅に関する講座」を受けてみたい。

### <女性>

- ・定年後は仕事から離れ、ぼんやり何かをしたいと思っている。
- ・老後は健康・美容を中心に、他者とのふれあいを求めている。
- ・強制的・受動的な理由での活動参加が見受けられる。
- ・時間がない・どんな活動があるかわからないといった理由から参加できていない。
- ・「情報提供」と「活動の自由度」があれば参加したいと思う。
- ・「健康や美容に関する講座」、「お茶など趣味を深める講座」に興味がある。

ということがわかった。

また、年齢差をみると、年齢層が高くなるにつれて、「仕事以外の仲間作り」や「隣近所とのつながり」など、新たな仲間作りを大切にしていきたいと考えるようになることが明らかとなった。

受講してみたい講座にも差がみられ、49 歳以下は「子ども理解に関する講座」、50～54 歳では「健

康や美容に関する講座」、55歳以上では「旅に関する講座」が人気であった。

3. ボランティアの参加頻度を軸として、クロス集計による分析を行った。性別や年齢によるボランティアの参加頻度への偏りがみられなかったが、ボランティア休暇制度を取り入れるなど積極的な姿勢のある企業では、従業員が定期的なボランティア参加をしている割合が高いことがわかった。当然ではあるが、ボランティアに関する環境が大きな差を生んでいることは確かである。参加頻度によってタイプ分けすると、以下のような特徴がみられた。

<定期的に参加するタイプ>

- ・定年後のビジョンがはっきりしていて、今後も積極的に参加したいと考えている。
- ・周りのために何かしたいと感じ、ボランティアに様々な価値観を見出している。
- ・社会や家族から認められるようなボランティア環境を求めている。
- ・より専門的な知識を求めており、そういった講座に参加したい。

<1～2回の単発的に参加するタイプ>

- ・定年後はあまりイメージできていないが、なんとなく自分の時間を大切にしたい。
- ・ボランティアは一般的な活動であり、半ば強制的な参加であった。
- ・会社や周りのボランティア環境は、一応整っている。
- ・無料の講座があるのであれば、積極的に参加したいと思っている。

<全く参加したことのないタイプ>

- ・仕事とボランティアは両立できないと思う。
- ・定年後のイメージができておらず、とりあえず健康にだけ気を遣いたい。
- ・会社や周りのボランティア環境が整っておらず、仕事に時間を使っている。
- ・ボランティアは負担だ、よくわからないという考えがある。
- ・地域の広報誌はよく目を通す。
- ・講座は興味のひかれるものであれば参加したいと考えている。

また、以上のタイプに関係なく、情報発信のチャンネルは、「地域の広報誌」が最も有効であるということである。

以上の調査結果から、ボランティアに参加することの重要性を踏まえた上で、企業と行政に向けて、以下のような提言ができる。

企業は、多くの人が日常を過ごす場所であるため、積極的にボランティアの環境整備を行って頂きたい。ボランティアと仕事の両立は難しいと考えるかもしれない。しかし、ボランティアに全く参加したことのない人は、仕事に集中するあまり、定年後に漠然とした不安を抱いていることがわかった。また、実際にボランティアに関する環境が整っていない会社ほど、そういった人が多い。この不安感を解消し、よりよい定年後の生活を送っていくためには、企業としてボランティア活動に積極的な姿勢をみせることが重要である。

行政は、情報発信をしていくためのチャンネルは「地域の広報誌」を中心に発信していきたい。そして重要なのは、全くボランティアに参加をしたことのない人だけをターゲットにすることなく、様々な参加頻度のキャリアに注目して検討していきたいということだ。

定期的にボランティア参加する人のためには「専門的なキャリアアップを目指す講座」を、単発的な参加・全く参加しない人のためには「入門的な興味関心をひかれる講座」をそれぞれ用意することが重要であるといえる。また、参加できていない人には「負担の少ない」ボランティアの提供を、定期的な参加をしている人に対しては「社会的な評価・理解」が得られるような仕組み作りが必要となる。このように、本調査結果を踏まえて、参加タイプによるニーズの把握を進めてもらいたい。

もちろん、性別・年齢による違いも大きくでてくる。そちらも参考にしながら、さらに細分化されたニーズ把握に努めることで、より本調査の効果が期待されるだろう。